

# 外国語（英語）科学習指導の参考例

## 第3学年 外国語（英語）科学習指導案

平成21年○月○日（○）○校時  
○組 男子○名 女子○名 計○名  
指導者 ○ ○ ○ ○

### 1 単元 NEW HORIZON English Course 3 Unit 6 20th Century Greats

#### 2 単元について

本単元は、20世紀の偉人たちを取り上げ、特に、化学物資による環境汚染への警告書である『沈黙の春』の著者レイチェル・カーソンに焦点を当てている。また、カーソンの業績について知るだけでなく、伝記を読んで内容を理解し、その情報に基づいて、彼女の生涯に関するレポートをまとめるという課題は、三年間最後の単元にふさわしいと考える。言語材料としては、接触節や関係代名詞（主格・目的格）が扱われている。接触節については、形・意味・用法などを理解させ、コミュニケーション活動を行わせたいと考える。また、関係代名詞は理解の段階にとどめる文法事項であることから、形容詞節としての働きを指導の中心にし、「聞くこと」の言語活動を通して理解できるようにしたい。さらに、教科書にも紹介されている著名な偉人をはじめ、多くの偉業を成し遂げた人や様々な形で貢献した人などを紹介することにより、偉人たちに興味・関心を持ち、世界に向けての視野を広げさせたい。

このような題材を生かし、生徒が興味のある人物について、説明したり自分の考えなどを正しく英語で表現したりする学習活動を展開したい。その上で、世界の偉人について英語によるレポートを作成させ、そのレポートを発表し合う学習活動に取り組みさせたい。

本課においては、「読むこと」や「書くこと」の学習活動を重点に行うが、作成したレポートの発表を行わせる学習活動などを通して、「聞くこと」と「話すこと」の言語活動に発展させることなどにより、4領域を関連付けながら指導を行い、総合的なコミュニケーション能力の育成を図りたい。

また、1単位時間の指導計画において、英語による口頭導入やインタラク션을図りながら教材を活用したり、レポート作成の過程でQ&Aを行ったりするペアやグループ活動の場面を設定したりするなど、4技能の統合的な指導を行うようにする。

これらのことにより、生徒に本単元の基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、それらの活用を図り自分の考えや気持ちなどを相手に伝えることができるよう学習活動の充実を図りたい。

具体的には、本課においては「自分の興味のある世界の偉人についてレポートを作成し発表しよう」というタスクを設定した。

新学習指導要領の改善のポイントにそって学習指導のモデル例を作成する。その視点は、①自分の考えを相手に伝えるための「発信力」の育成、②コミュニケーションの中で基本的な語いや文構造を活用する力の育成、③内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力の育成等である。これらの身に付けさせたい力を育成するために、本モデル例においては、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能の総合的な指導を通して、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成を図る学習指導の在り方について指導案の形式で提示したい。

言語材料などの取扱いについては、単に機械的にドリル的な練習をさせる方法に偏ることがないように留意し、本単元の基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、それらの活用を通して生徒に行わせたい言語活動について述べるようにする。

指導観として、本単元の授業を展開するに当たって、世界の偉人についてレポート作成しその発表を行うことを単元のタスクとして設定したことを述べている。これは、本単元の基礎的・基本的な知識・技能をレポートの作成及び発表という活用場面を設定したものである。単元のタスク設定に当たっては、4技能の総合的な育成を図る観点を留意する必要がある。

単元タスクを達成し4技能の総合的な育成を図るために、1単位時間の指導計画の工夫や学習形態を工夫して言語活動の充実を図ることについて述べている。本単元の教科書教材では、「読むこと」と「書くこと」に指導の重点が置かれているが、学習指導を行うに当たっては、音声を重視し、英語を聞いて、答えるインタラク션을などを行ったり、聞き取ったことを書いてみたりするなど、バランスよく4技能の育成を図りたい。

活動内容としては、まず、第1時でスキーマ形成を図るとともにレポートの作成の手順について説明を行う。次に第2時から第5時までは、教科書を活用して、レポート作成に必要な言語材料や基本表現を用いた自己表現活動を行わせるとともに、レポート作成に取り組ませたい。これにより、本単元の基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。また、第6時で作成したレポートの推敲を行わせ、第7時にレポート発表の場を設定する。

最後に第8時でALTに対して対話を交えながら、学習活動を振り返らせるようにする。

### 3 生徒の実態

本学級の生徒は、「聞くこと」や「話すこと」の学習活動については、対話活動やスキット発表に積極的に取り組むなどの学習態度が見られる。しかしながら、「聞くこと」や「話すこと」について、あらすじや要点を適切に聞き取ったり、英語特有の音声に注意して、正しく発話したりするなどの技能などについて、生徒一人一人に差異が見られる。そこで、英語学習に関することや本単元のレポート作成に必要な要素等について質問し、実態を把握することにした。

#### ○ 英語学習の意識に関すること（アンケート項目の例）

- Q1 英語の授業でどんな活動が好きですか。  
「英語を聞く活動」「英語で話す活動」  
「英語を読む活動」「英語で書く活動」
- Q2 あなたは英語は得意ですか、苦手ですか。  
「とても得意」「やや得意」「やや苦手」「とても苦手」
- Q3 英語の授業をどのくらい理解していますか。  
「よく理解している」「60～80%程度理解している」  
「40%～60%くらい理解している」「理解することが難しい」
- Q4 英語の学習でわからないとき、あなたはどうしますか。  
「先生に聞く」「友だちに聞く」「辞書で調べる」  
「参考書などで調べる」「特に何もしない」
- Q5 あなたは、英語で「書くこと」の表現活動を行うときに困ることはどんなことですか。  
「単語がわからない」「語順がわからない」  
「既習の文法や表現を活用することが難しい」  
「自分の考えや気持ちが伝わるように書くことが難しい」  
「与えられたテーマにそって英文を構成することが難しい」

以上のアンケートの結果から、英語の授業を多くの生徒は理解し、「聞く活動」や「話す活動」に積極的に学習に取り組んでいる生徒も多いが、語い表現、文法や語順などの語法などの基礎的・基本的な知識・技能の定着が十分でないことから、「書く活動」への苦手意識を感じている生徒もいることが分かる。

また、その理由として、既習の語い表現を活用して、与えられたテーマに沿って英文を構成していくような表現力が不足していることがあげられる。

そこで本単元の学習においては、生徒の興味・関心のある世界の偉人についてレポートを作成し発表する学習活動を通して「書くこと」の言語活動の充実を図り、生徒に英語によるレポート作成により聞き手に伝える楽しさを味わわせたい。

具体的な指導については、単元構成にそって述べるようにする。基礎的・基本的な知識・技能の習得とその活用を図るため、どのような学習指導を展開するかについて述べる。本指導案においては、レポート作成の時間を集中的に設定するのではなく、教科書教材を取り扱う第1時から第5時までにレポートの第1次原稿が完成するようにしている。このことにより、毎時間の習得した基礎的・基本的知識・技能を活用する場面を設定することにつながる。

生徒の実態については、日頃の生徒の英語学習の実態について述べるとともに、本単元に関わる基礎資料を収集するアンケート調査等を実施し、その分析について述べるようにする。

生徒が英語学習のどんな言語活動に興味・関心があるか、また、英語学習にどの程度取り組もうとしているか、理解の程度をどのように感じているかなど、基礎的な資料となるようなアンケート項目を作成する。  
(例) Q1～Q4

本単元を学習するに当たって、指導の重点となる言語活動の生徒の意識を把握する必要もある。生徒のつまづきを把握し、本単元の学習を通して、学習つまづき等の改善が図られるようにしたい。また、アンケートを実施することを通して、生徒に英語学習のポイント等に気付かせたい。(例) Q5

本単元を学習するに当たって、指導の重点となる言語活動の生徒の意識やつまづきを把握し、本単元の学習を通して、学習つまづき等の改善が図られるようにしたい。また、アンケートを実施することを通して、生徒に英語学習のポイント等に気付かせたい。なお、本項においては、本単元の学習活動の必要性について述べるようにする。

#### 4 単元の目標

- (1) 環境問題に関する草分け的存在であるレイチェル・カーソンの業績や生涯に興味をもち、自分が興味のある人物についてレポートを作成し、そのレポートの発表に意欲的に取り組むことができる。
- (2) 自分が興味のある人物についてレポートを作成し、そのレポートを発表することができる。
- (3) 20世紀の偉人たちの紹介文や身近で興味・関心のある話題を取り入れたTeacher Talkなどを聞いたり、また、その原稿等を正確に読み取ったりすることができる。
- (4) 接触節や関係代名詞の形・意味・用法を理解し、実際の言語使用場面に合わせて適切に使用できるだけの知識を身に付けている。

単元の目標については、学習指導要領解説に示されていることや教科書等を参考にしながら、①コミュニケーションへの関心・意欲・態度、②表現の能力、③理解の能力、④言語や文化についての知識・理解の4観点にそって述べるようにする。また、単元の学習を通して、目指す生徒の姿が読み取れるように述べるのが大切である。

#### 5 単元の指導計画

単元のタスク：「自分の興味のある世界の偉人についてレポートを作成し発表しよう」

(L:「聞くこと」、S:「話すこと」、R:「読むこと」、W:「書くこと」)

	学 習 内 容	レポート作成	指導の重点			
			L	S	R	W
第1時	スキーマ形成（課全体のあらましの把握） 「Starting Out」： 接触節の形・意味・用法の理解と表現 新出語句の学習 本文の内容把握 音読	オリエンテーション（作成手順の説明）	◎	○	○	○
第2時	「Dialog」： 関係代名詞whoを用いた文の形・意味・用法の理解 新出語句の学習 本文の内容理解 音読	「人物」の決定。表現例の提示	○	◎	○	○
第3時	「Reading for communication」： 関係代名詞that[which]（主格）を用いた文の形・意味・用法の理解 新出語句の学習 本文の内容理解 音読	語い、表現を活用し、レポートを作成	○	○	◎	○
第4時	「Reading for communication」： 関係代名詞that（目的格）を用いた文の形・意味・用法の理解 新出語句の学習 本文の内容理解 音読	語い、表現を活用し、レポートを作成	○	○	◎	○
第5時（本時）	「Reading for communication」： 音読（表現読み） レイチェル・カーソンの生涯について理解し、その情報を英語でまとめる。また、作成したレポートについて意見交換を行い、その後レポートを推敲する。	グループで進捗状況を確認し、それぞれのレポートについて意見交換を行う。	○	○	○	◎
第6時	「Listening Plus」： 20世紀のスターについて聞き取りを行う。また、本単元で学習した語いや基本表現を活用し、自分の興味のある人物についてレポートを作成し、そのレポートの発表の練習を行う。	レポートの推敲及び発表の練習を行う。	○	○	○	○
第7時	レポートの発表会を行う。 （ALT や英語教員、地域の外国人などを対象にする）	レポートの発表を行う。	○	◎	○	○
第8時	単元のまとめ 学習の振り返り ALT に向けて、発表し、ALT の質問に答える。	レポートについてのQ&Aを行う。	○	○	○	○

単元のタスクについては、単元全体を見通した言語活動になるように設定する。その際、コミュニケーションの相手と目的を明確にし、生徒が興味・関心を感じるようなタスクを設定するように工夫することが大切である。

言語活動の指導の重点を◎（特に重点を置く）、○（重点を置く）で示した。英語学習はスパイラルに展開されていくことを踏まえ、単元の目標にそって指導の重点を置くようにすることが大切である。

「世界の偉人についてレポートを作成し発表する」言語活動を通して、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともにその活用を図る単元計画を作成している。レポートの英文の量は、5文～8文程度とした。教科書教材を中心に扱う第1時から第5時において、発展的な言語活動としてレポート作成に取り組むことができるようにした。

レポートの発表会については、ALTや他の学級の英語担当教員に聞いてもらったり、地域の外国人を招待したりする工夫などを行うことにより、生徒の発表への意欲を高めることが期待できる。また、学習形態の工夫により、グループごとのローテーションによる発表なども効果的である。発表した生徒に英語で称賛を与えることで生徒の意欲を一層高めることが期待できる。

学習の振り返りを行う際、達成感や効力感などを生徒一人一人が感じることができるような学習形態を工夫する必要がある。また、生徒の作成したレポートについて、ALTに質問させ、生徒に答えさせるような学習活動も設定したい。

## 6 単元の言語の使用場面と言語の働き

言語の使用場面	言語の働き	文法事項・基本表現
・授業で	・説明する	・接触節 This is a book I bought in the United States.
・職員室で	・質問する ・答える	・関係代名詞 (who) Carson is the scientist who wrote <i>Silent Spring</i> .
・人物事典	・説明する	・関係代名詞 (that[which]主格) This is a movie that[which] makes us happy.
・伝記のメモ	・説明する ・レポートする	・関係代名詞 (that 目的格) This is a book that she wrote last year.
・レポートの発表	・発表する	・関係代名詞 (who, that, which など) It was a book that changed our view of nature.

言語の使用場面、言語の働き、文法事項・基本表現については、教科書教材及び単元のタスクで設定し内容について、整理してまとめるようにする。

本単元では、4技能の総合的な育成、基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用の観点から単元設計を行い言語活動の充実を図った。

4技能の総合的な育成の観点からの単元設計では、「読むこと」から「書くこと」への言語活動を展開する教科書教材を「レポート作成及び発表」という言語活動を設定することで、「話すこと」と「聞くこと」の言語活動へ展開するようにした。また、「読むこと」の教材を取扱う際、音声を重視した導入を図り、「聞いたり、読んだりしたことについて、問答したり意見を述べ合ったりする」言語活動を行うようにする。

## 7 単元設計上の工夫

### (1) 4領域を総合的に関連させた学習指導の工夫

本単元の教材を通して「読むこと」の活動から「書くこと」の活動であるレポート作成に取り組みさせるようにした。さらに、作成したレポートを発表させることで「話すこと」や「聞くこと」の活動へ展開させ、4領域を関連させた言語活動に取り組みさせていきたい。このような学習活動を展開するため「自分の興味のある世界の偉人についてレポートを作成し発表しよう」という単元のタスクを設定した。

### (2) 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る学習指導の工夫

第1時から第5時までにおいて、教科書教材の活用を通して基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、生徒のレポート作成への興味・関心を持続させ、学習した語いや表現を授業の中ですぐに活用できるようにレポート作成の時間を設定した。なお、英語の分量としては、5～8程度の英文でレポートを作成させるようにした。また、第5時においては、作成したレポートについてお互いが意見交換をする場を設定し、その後、レポートの推敲に取り組みさせるようにした。

基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る観点からの単元設計では、第1時から第5時までにおいて、教科書教材の言語材料の定着を図る。同時にその活用を図る場として英文レポートの作成に取り組みさせる。その後、推敲の時間、発表の時間などを設定する。英文の作成に当たっては、教科書の言語材料を活用して作成させ、その際、I thinkやI believe, In my opinion...などの表現を活用して自分の感想や意見などを伝えられるよう指導を行うようにする。

## 8 本時の実際

### (1) 本時のタスク (5 / 8)

「作成したレポートについて意見交換を行い、それを基にレポートを推敲しよう。」

### (2) 本時の目標

- ア 学習した語いや表現を活用し、レポートの推敲に積極的に取り組む態度を育成する。
- イ 学習した語いや表現を活用し、自分の興味のある世界の偉人についてまとまりのある英語で書くことができる。
- ウ レイチェル・カーソンの英語や友だちのレポートの英語を聞き取ることができる。
- エ 自分の興味のある世界の偉人についてレポートを作成する際に必要な語いや表現を理解している。

本時のタスクについては、単元のタスクの具現化に迫るものとし、言語活動を明確にすることが大切である。

本時の目標については、単元の目標や生徒の実態に応じて、①コミュニケーションへの関心・意欲・態度、②表現の能力、③理解の能力、④言語や文化についての知識・理解の4観点にそって述べるようにする。その際、レポートを作成する、レポートを推敲するなど、言語活動を具体的に述べるようにする。

(3) 本時の学習過程

区分	学習過程	時間	生徒の活動	指導上の留意点
導入	Start Greetings 1 Warm Up 2	10	1 英語で元気よくあいさつをする。 2 本時の学習内容につながるゲーム等を行う。	・ 英語学習の雰囲気をつくる。 ・ 生徒が間違いを恐れずに言語活動ができる雰囲気をつくる。
	Teacher Talk 3 Grasping Task 4 Writing 5		3 世界の偉人について、教師の英語を聞き概要を把握する。その後、教師の英語の質問に答える。 4 本時のタスクを把握する。 作成したレポートについて意見交換を行い、それを基にレポートを推敲しよう	・ 教師がスピーチを行う際、写真やピクチャー・チャートなどを用意し、生徒に概要・要点を把握させる。 ・ 板書を行い、学習への目的意識を高める。
	Check of Understanding 6 Yes Talking about the report 7 Writing 8		5 レイチェルカーソンについて、教師の英語を聞き取り、英文にまとめる。その後、グループで確認を行う。 6 聞き取った英語をまとめた内容を全体で確認する。 7 グループで各自が作成したレポートについての意見交換を行う。 8 グループ内で指摘されたことをもとに、再度、レポート原稿の推敲を行う。	・ ピクチャー・チャートを用いてこれまでの学習内容を想起させ、レポートに必要な語いや表現を意識させる。 ◆ 教科書の内容を理解しレイチェル・カーソンの生涯について英語でまとめることができたか。 □ 再度、ピクチャー・チャートを用いて、説明を行い、教師の質問に答えさせ、英語でまとめることができるようにする。 ・ グループでの意見交換が活性化できるように会の活動の進め方等は事前に知らせる。 ・ レポートの作成の仕方を再度意識させる。 ・ 既習の語いや表現を活用させながら、レポート原稿を推敲させる。
展開	Reading Aloud 9 Presentation 10 Yes	35	9 レポート発表に向けての音読練習を行う。 10 音読練習の成果を発表する。	・ 強勢、イントネーション、区切りなどの基本的な音声に留意させた上、音読練習をさせる。 ◆ 聞き手に伝わる発表であったか。 □ グループ内で練習させた後、発表させる。
	Evaluation 11 Assignments 12		11 授業の感想や発表会に向けての改善点を述べ合う。 12 次の活動について確認する。	・ 本時を振り返らせ、感想及び発表会に向けての改善点を発表させる。 ・ 今後の課題を明確にもたせる。
	End			
まとめ		5		

導入においては、生徒の気持ちを和らげたり、明るく楽しい学習の雰囲気を作り出せるよう工夫する必要がある。Warm Upで本時の学習活動と関連のある言語材料を用いてゲーム等を行えば学習意欲の高まりも期待できる。

展開においては、まず、Teacher TalkやReviewなどを通して、前時までの学習内容を想起させる必要がある。その際、英語でインタラク션을図りながら学習内容を想起させるようにする。ピクチャー・チャートや写真、具体物などを提示しながらインタラク션을図ると生徒に学習内容の想起を一層促すことができる。

言語材料など基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせることが大切である。その際、ピクチャー・チャートやフラッシュカード等の活用を図るなど文字と音声を同時にとらえさせるように工夫する。また、板書の構造化を図り、生徒が板書をノートに書きとめる時間も確保する必要がある。

意見交換を行う際、事前に話合いのポイントを提示することが大切である。(例)①語順、②文章の構成(接続詞の位置)、③代名詞の使い方、④「説明する」表現の活用など

レポート原稿の推敲を行う際は、生徒の実態に応じてグループやペア活動を取り入れるようにする。

音読の練習の際は、ペアで行わせ、お互いにアドバイスを行わせる。

発表させる際は、聞き手が人物についてアウトラインを把握できるように、キーワードや表現について、確認を事前に行うようにする。

振り返りを行う際は、作成しているレポートの課題を明確にしたり、進捗状況や成果等について発表させたりする。

平成19年度長期研修者の実践例を基に作成

参考文献：文部科学省「中学校学習指導要領解説 外国語編」

平成20年9月

鹿児島大学教育学部附属中学校「授業設計の基礎・基本」平成17年6月

